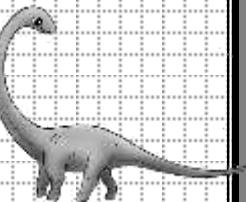


2013年1月

ち ねん がつ  
地質一 No. 6

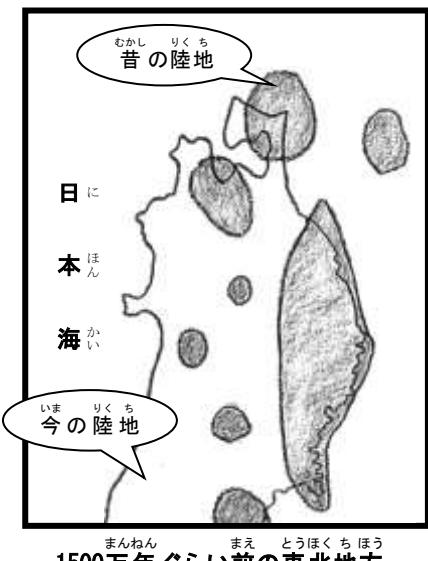
## けんぱくものしりシート

# きたかみさんち おううさんみやく 北上山地と奥羽山脈



たくさんのがいっしょにくらしておったんじゃ。

花泉は、ちょうど北上山地と奥羽山脈のふたつの山並みにはさまれておる。岩手県の3分の2をしめる北上山地からはサンゴや三葉虫、アンモナイトのような日本でも古い時代の化石が見つかる。4億4000万年から6500万年ぐらい前の化石じゃが、“北上山地はこのころ海の底でつくられた”ということをおしえているんじゃよ。

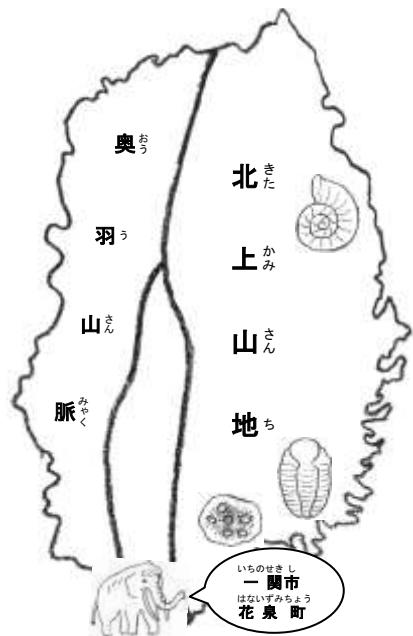


わしは、今から2万年ほど前、岩手県のずっと南にある一関市花泉町でくらしていたナウマンゾウじゃ。ナウマンゾウは40万年から2万年ぐらい前のあいだ、日本中のいたるところでくらしておった。わしのふるさと花泉では、わしたちゾウのほかにもオオツノジカや野牛や

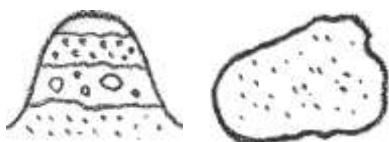


キンリュウオオツノジカとハナイズミモリウシ

北上山地だけじゃない。奥羽山脈も、もちろん海の底でつくられたんじゃ。これは、1500万年ぐらい前の岩手県のあたりの地図じゃ。いちばん大きな島は、なんと今の北上山地じゃ！奥羽山脈はこのとき深い海の底で、このあと陸地になったんじゃ。北上山地にくらべたら奥羽山脈はずっとあの時代にできたことがわかるじゃろう？



ところで、“北上山地と奥羽山脈は時代がまったくちがう”ということをはじめて発見したのは、130年以上も前にドイツからやってきた20代の若者なんじゃ。この若者は、まだ鉄道もとおっていない広い東北地方を、日本人の助手たちといっしょに馬と徒步で半年以上も旅をしながら、地層や岩石についてしらべたんじゃ。明治のはじめのころじゃから、もちろん今のような地図はない。けれども、若者は東北地方だけじゃなく日本中を旅して、日本の地層や岩石を研究する地質学の基礎をつくったんじゃよ。まったく、たいした若者じゃないか！



えっ？ その若者はなんという名前かだって？ ナウマン。エドムント・ナウマンというんじゃ。わしの名前と同じじゃろう？ ナウマンは日本各地で見つかっているわしたちゾウの化石についても研究したので、その名前がつけられているんじゃよ。

ナウマンが東北地方を旅したころ、実は



北上山地にはまだ名前がなかった。そこでナウマンは研究の結果から、近くを流れる北上川の名前をとって『北上山地』と名づけたんじゃ。北上山地はそのあとも研究がつづけられていて、いろんなことがあきらかになった。

最近も、ナウマンのようなたいした若者が地球のなぞにせまる大きな発見をしたそうじゃ。北上山地も奥羽山脈も毎日ながめたなつかしい風景じゃが、そこにはまだまだ知られていない地球の歴史がかくされているんじゃよ。

参考にした本『地質ニュース653号』—ナウマンの予察地質図「東北部」と地域地質の普及— 産総研 地質調査総合センター 2009年 ほか

らいげつ がつ  
来月(2月)の  
けんぱくものしりシートは  
考古一6だよ！  
おたのしみに！



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34  
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214  
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>